

# 和白干潟を守る会

## 2007年度活動報告

2008.2.23 和白干潟を守る会事務局

活動方針 1. 和白干潟での自然観察会をお世話し、多くの市民、特に子どもたちに自然の大切さを伝えることを通して、自然保護の機運を高める。

### 1. 和白干潟自然観察会

2007年4月、観察会グループミーティングを行った。5月、観察会の案内を保育園、小中学校、高校、公民館等へ送付した。依頼を受けると観察会の前に見学・打合せをし、観察会に来る学校等でパンフレットやビデオを使った事前学習をしてもらった後、観察会を実施した。

2007年度中（1月～12月）の和白干潟自然観察会は、年間18回の観察会で、延べ544名の見学者のお世話をした。内訳は以下のとおり。

学校関係からの依頼では、保育園3回102名、小学校1回133名、中学校2回71名、高校2回84名、大学2回63名、合計10回453名あった。その他に団体や個人への和白干潟の観察会や案内が合計5回、延べ48名あった。

また守る会主催ではラムサール企画の観察会を2回（7月ハマボウを見る会、8月ハマゴウを見る会）と、第11期ガイド講習会を8月に開催し、述べ43名の参加があった。

\* 1月に「環境教育シリーズⅡ」の水鳥の名前の韓国語版（ハングル名）を作成した。

\* 10月に和白干潟のエプロンシアターを作成した。

### 2. 第11期和白干潟自然観察ガイド講習会

和白干潟の自然の特性を良く理解して、観察会の案内が出来るように8月に第11期和白干潟自然観察ガイド講習会を開催した。20名が参加した。

講師 （財）日本自然保護協会自然観察指導員 堀謙治氏

テーマ「自然観察会・もう一步踏み込もう！」

### 3. 第19回和白干潟まつり

和白干潟まつりは多くの人たちに和白干潟に来て、その素晴らしさと危機にある現状を知り、自然環境を守ることの大切さを認識してもらう目的で、毎年企画している。生協の協力を得て、毎年約500名の人たちがまつりを楽しんでいる。

2007年11月25日（日）は快晴で、楽しい一日となった。来場者は約450名。子供達の参加も多かった。模擬店は16店、イベントのスケジュールも順調に進行した。バードウォッチング、干潟の植物・干潟の生き物観察会やネイチャーゲームには、それぞれ熱心に参加された。ステージでは「ふくおか東部子ども劇場」による人形劇・わらべうた・数えうた、「ボリビアマンマ」の南米の民族衣装での民族楽器演奏、「わくわくマジック福岡」グループ6名の楽しいマジック、守る会のエプロンシアターをそれぞれ楽しんでもらえた。バザー・一言アピール、手をつないで、干潟の清掃も大勢の参加があった。次の2008年には、20回目を迎える。

#### 4. 和白干潟クリーン作戦と自然観察（毎月第4土曜日）

毎月第4土曜日午後3時から5時まで、海の広場から唐原川河口までの範囲をその時の状況に合わせて清掃し、同時に自然観察、水質調査も実施した。各回8名から49名、延べ324名が参加。

ゴミは17袋から192袋、計873袋を回収。それ以外に、延べ203名が随時清掃し、ゴミ485袋を回収した。合計で年間の参加者は延べ527名で昨年より187名増えている。定例のクリーン作戦参加者などが昨年より多くなっている。ゴミの回収量は年間で1358袋に達した。ごみの量は昨年より223袋少なかった。粗大ゴミはタイヤ、ソファー、自転車、ボート、流木、金属製ドアなどがあつた。アオサも回収した。2007年はアオサの和白干潟到達が遅く、11月下旬から沿岸に大量に漂着し堆積した。

- ・4月28日(土)のクリーン作戦は「干潟を守る日」と「春のビーチクリーンアップ」に参加。
- ・6月10日(日)は九州各県70ヶ所で行われる「ラブアースクリーンアップ」に参加。
- ・7月19日(木)ハマボウを見る会、8月9日(木)ハマゴウを見る会でも参加者全員で清掃。
- ・9月22日(土)のクリーン作戦は「国際ビーチクリーンアップ」も兼ねゴミデータ調査実施。クリーン作戦の用具として、一輪車、アオサ回収用のかごなどを新調した。看板を新しくした。

#### 5. ラムサール条約登録をめざして

(1) 和白干潟のラムサール条約登録を目指して、ハマボウを見る会(7/19)、ハマゴウを見る会(8/9)を企画した。観察会案内チラシの裏面にラムサール条約を要約した内容を印刷し、香住ヶ丘と雁の巣に200枚づつ配布し、地域住民への理解を呼び掛けた。

(2) 「和白干潟ラムサールコンサート」を開催した。(11/10)

和白3・4区公民館に本田路津子さんをお迎えして、和白周辺の人々にラムサール条約の主旨などをアピールするコンサートを企画、開催した。始めに、和白干潟エプロンシアター、和白干潟の自然紹介・ラムサール条約の話をした。この日の為に作った、くすだひろこ作詞・砂入成章作曲の「ミヤコドリ」の歌を本田さんの指導で聴衆も声を揃えて歌った。入場者数は定員70名を超えた73名あつた。干潟のことを伝え、声を合わせ歌い、楽しんだ1日になった。

(3) 「和白干潟保全のつどい」で「和白干潟ラムサール学習会」を企画提案、つどい主催で実施した。

第1回ラムサール学習会4/10(火)環境省九州事務所から2名、参加は約30名。(守る会13名)  
第2回ラムサール学習会6/12(火)「藺牟田池鹿児島県立自然公園視察」17名参加。(港湾局5名、ウエットランドフォーラム2名、守る会10名)

ラムサール湿地登録となる環境や条件を学び、今後の課題を考えるきっかけになった。

(4) 環境大臣に和白干潟のラムサール条約登録への要望書を提出した。(9/6)

(環境省主催の地元の懇談会が11月に開催された。)

(5) 国指定和白干潟鳥獣保護区地元懇談会について福岡市情報公開室に行き、資料をコピーした。

活動方針2. 和白干潟の大切さとその変わりつつある姿を、広く社会に訴えるため、和白干潟およびその周辺の生物の調査に力を入れる。

#### 6. 調査

(1) 毎月1回、水質調査をした。

2007年の水質調査結果について

リン酸( $\text{PO}_4$ )と亜硝酸( $\text{NO}_2$ )は例年並みで、ほぼ正常値に近かったと思われる。化学的酸素消費量(COD)は、2007年は測定値が高く、5から10を超える(06年は2か月、07年は3

か月)月が多かった。これは年間を通じて高温の日数が多かったためと考えられる。COD測定は水温によって反応時間を増減しなければならない点を今後注意する。

(2)ゴミ内容調査をした。(国際ビーチクリーンアップ)(9月)

(3)(財)日本自然保護協会の外来種植物調査に協力した。(10月)

(4)鳥類調査では以下の調査に協力した。

- ・1月 和白海域水鳥調査(日本野鳥の会福岡支部・IWRB 国際水禽湿地調査局)
- ・1~2月、12月 環境省モニタリングサイト1000 冬期シギ・チドリ調査  
(環境省・WWFJ・JAWAN)(3回実施)
- ・4月~5月 環境省モニタリングサイト1000 春期シギ・チドリ調査  
(環境省・WWFJ・JAWAN)(3回実施)
- ・8月~9月環境省モニタリングサイト1000 秋期シギ・チドリ調査  
(環境省・WWFJ・JAWAN)(3回実施)

2007年度の鳥類調査参加者は、毎回10名から16名、延べ113名が参加した。また一斉調査以外にも個人で調査を行った。

**活動方針3.** 悪化しつつある和白干潟の環境を保全するため、博多湾人工島計画の凍結・縮小を含めた和白干潟保全策を市民や関係機関に訴える。

06年秋の市長交代を受け07年2月に新市長宛に「博多湾・和白干潟保全のための提案」を提出し、5月にその回答をうけた。その時点では目新しい回答はなかったが、7月に市長が主催する「聞きたかけん」を守る会の事務所で開くことができ、市長に直接和白干潟について話すことができた。また9月には環境大臣へ和白干潟のラムサール条約登録への要望書を提出し、そのことで地元説明会が再開された。市民や関係機関への地道な働きかけを続けることが大切であるとの認識を新たにした。

## 7. 行政への働きかけと表彰

- ・国の鳥獣保護区の立て看板が倒れ、再度立てるように環境省(熊本、福岡)に連絡する。(1月)
- ・福岡県の和白干潟アシ原付近の保安林指定の立て看板が倒れ、再度立てるように県緑化推進課に連絡する。(1月)
- ・福岡市長に「博多湾・和白干潟保全のための提案」を提出。(2月)
- ・「博多湾・和白干潟保全のための提案」に関する福岡市長回答を受ける。(5月)
- ・北九州市環境賞に応募。(6月)
- ・「聞きたかけん」で吉田宏市長と懇談。要望について、後日紙面で回答を受ける。(7月)
- ・福岡市主催「人工島事業検証・検討中間報告説明会」参加。(7月)
- ・「アイランドシティ整備事業検証・検討中間報告」に意見書を書く。(7月)
- ・環境大臣へ和白干潟のラムサール条約登録への要望書を提出した。(9月)
- ・第9回明日への環境賞に応募。(9月)
- ・福岡市エコパークゾーンにおける海域利用に関するルールづくり委員会傍聴(10月)
- ・和白干潟のアオサの件で港湾局維持課に連絡し、アオサを回収してもらう。(秋)
- ・「第1回福岡市環境行動賞」に市民団体として「最優秀賞」を受賞。表彰式参加。(11月)
- ・海の広場の一部が砂利土礫で埋められた件で、現地を確認し港湾局に連絡。(11月)

- ・エコパークゾーン等水域利用検討委員会の委員に就任。(11月)
- ・「エコパークゾーン等水域利用検討委員会」の「環境部会」に参加(12月)
- ・護岸工事について
  - 名島海岸護岸工事説明会。(2月)
  - 07年度分塩浜地区(和白川から五丁川までの間)護岸工事説明会。(6月)
  - 07年度分塩浜地区事業の進捗状況と来年度事業についての説明会。(12月)

## 8. 和白干潟通信・パンフレット類

1・4・7・10月に「和白干潟通信」を計4回(No. 81~84、各4200~4500部)発行した。毎号B5判8ページで和白干潟に関する情報を発信している。配布先は、会員、マスコミ・行政関係、和白干潟周辺の家庭。各号につき2回の編集会議を開いて作成した(編集委員は約8名)。発送作業はみんなで行なった。手配りでは、和白・奈多・美和台・高見台・唐の原・香住丘・御島崎・香椎の家庭に配布した。7月ハマボウを見る会、8月ハマゴウを見る会の案内チラシを香住ヶ丘や雁の巣の家庭に配布した。ラムサールコンサートのチラシを郵送や家庭配布した。

東区役所と東市民センターと「コミセンわじろ」などに「クリーン作戦と自然観察」のお知らせポスターを毎月掲示してもらい、和白干潟通信も常時置いてもらっている。東区内の公民館、和白丘の亀の井ホテル、喫茶「ほっと」、藍の家、ハローデイなどにも和白干潟のパンフレットや通信を置いてもらっている。

## 9. 和白干潟を守る会ホームページ <http://www.bekkoame.ne.jp/~miyakodori/>

会の行事予定や活動報告、和白干潟の生物などに関する情報を随時更新し、発信している。四季にわけて、生き物、植物、野鳥の写真や、観察会の様子などの画像も充実させるように努めている。協力者を募っている。

## 10. その他の広報活動

### (1) 情報の発信

新聞や雑誌、他団体の会報等に会の活動予定や鳥情報を発信した。雑誌等に和白干潟を紹介する文章を寄稿した。

- ・JAWAN「国際湿地シポジウム in 吉野川」の各地の報告に「和白干潟」を紹介。(1月)
- ・福岡市環境局のウェブサイト掲載を申し込む。(4月)
- ・日本河川協会のホームページに和白干潟を守る会を登録。(6月)
- ・福岡市環境啓発課発行環境関連事業紹介冊子「エコ・ウェイブ・ふくおか2007市民環境イベントガイドブック」9~11月のイベント情報掲載。(8月)
- ・黒田長久さんの絵の寄贈についてのお知らせと写真を新聞5社に送信。(9月)
- ・和白干潟のミヤコドリ情報を読売新聞社と朝日新聞社写真部に連絡。(10月)
- ・日本環境法律家連盟の機関紙「環境と正義」の「和白干潟を守る会」紹介文の掲載。(11月)
- ・クリーン作戦と探鳥会のお知らせを新聞4社とNHK TVに送信。
- ・干潟まつりと自然観察ガイド講習会のお知らせを国内の自然関係誌に案内。

### (2) 講演等

- ・福岡工業大学大学院社会環境学研究科設置記念シポジウムのパネラーとして参加(7月)
- ・パタゴニア福岡店のオープニング・セレモニーに和白干潟を紹介。(10月)

- (3) ミヤコドリの歌を作った。(3月)ラムサールコンサートで本田路津子さんが披露。(11月)
- (4) 取材協力…新聞社、テレビ局、ラジオ局、雑誌などからの取材に協力した。  
水産庁職員の沿岸域保全のための漁業者と市民が連携した仕組み作りの聞き取り調査に協力他。
- (5) 意見書送付・アンケート回答  
他団体や行政などの依頼により、環境問題や環境教育についての意見書を作成したりアンケートに答えたりした。

## 11. 対外協力・参加活動、交流活動

- (1) 和白海岸定例探鳥会(野鳥の会福岡支部)に協力・参加。毎月第2日曜日、計12回。
- (2) 和白干潟保全のつどい(構成団体:ウエットランドフォーラム、博多湾生態系活性化プロジェクト、和白干潟を守る会、福岡市港湾局)に2006年4月より参加している。毎月1回の定例会、ラムサール学習会(4月、6月)、塩浜畑地での芋ほり交流会を開催。(10月)アオサ回収イベント(11月)に参加した。
- (3) アオサ堆肥講座(港湾局)に参加した。(2月)
- (4) 福岡県ウエイクボード協会の方が来訪し意見交換した。(4月)
- (5) マイバッグ推進ふくおか市民の会に参加した。(7月)
- (6) パタゴニア福岡店に掲示する和白干潟や守る会の活動紹介のパネルを作成した。(10月)
- (7) 湿地カレンダー、野鳥カレンダーを委託販売した。

### \*\*\*\*\* 「和白干潟を守る会」運営 \*\*\*\*\*

## 12. 定例会議・総会(毎月第4土曜日)

毎月原則として第4土曜日、守る会事務所で「定例会議」を12回開催。そのうち2月は「総会」として開催した。出席者は各回11~19名。総会で活動方針を決めるほか、会の活動に関する重要な事項は定例会議で審議して決定した。

## 13. 販売・贈呈

観察会に来た学校・公民館等に和白干潟の写真集・ラムサールパンフを贈呈した。

## 14. 助成

- (1) 福岡市環境市民ファンドの「エコ発する事業」として、2007年4月から2008年3月まで(1年間)、和白干潟の保全と環境教育活動のために447,674円の助成を受けた。

## 15. 寄付・寄贈

- (1) 黒田長久さんから和白干潟の絵画を寄贈された。(8月)
- (2) 会員や一般市民から、会費納入、観察会、干潟まつり、望年会オークションなどの折にカンパを受け、合計336,256円のカンパが寄せられた。

## 16. その他

- ・NPO法人化について検討する。福岡県NPOセンター主催「NPOセミナー」「NPO組織運営セミナー」「NPO入門セミナー」に参加した。今後も継続して検討することにする。